

ベネッセ 教育生成AI活用の軌跡と未来(2023-2026)

2023年～2024年:活用の始まりと学習支援の基盤



2023年「自由研究おたすけAI」の誕生

小学生向けに夏休みのテーマ決めに支援する機能を提供し、利用者の6割以上から「役に立った」との高い評価を獲得しました。



「答えを教えない」対話型コーチングの導入

2024年開始の「チャレンジAI学習コーチ」では、AIが原因を予測して問いかけることで、子ども自身が「何がわからないか」を言語化できるよう導きます。



幼児向け「AIしまじろう」による会話育成

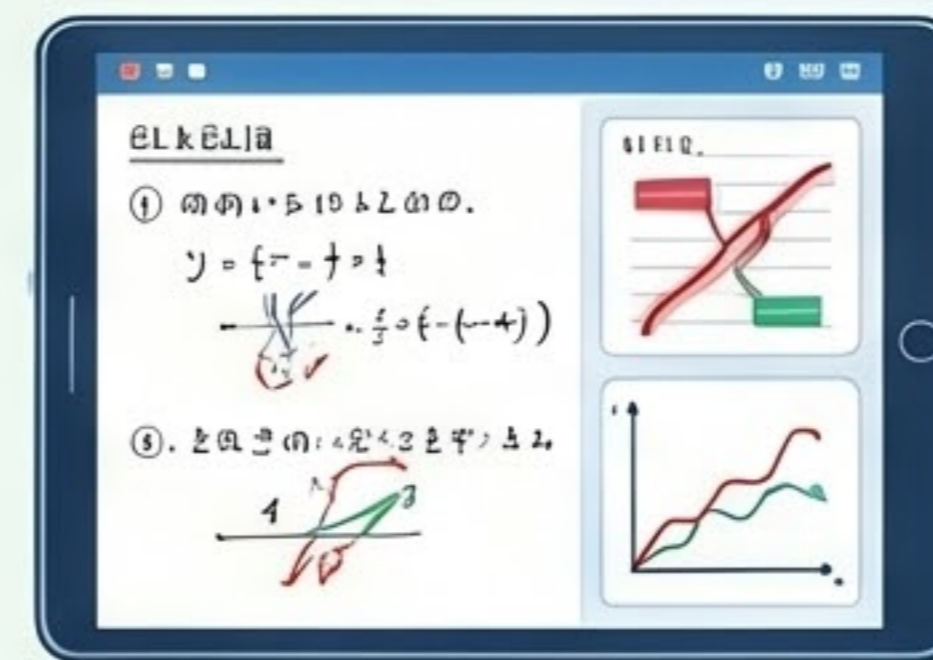
ぬいぐるみやアプリを通じ、自由な会話や遊びを提供。AIが子どもの囁きを分析して保護者にレポートする機能も備えています。

2025年:高度な専門性とグローバル展開



「AIセルフトークラーニング」でメタ認知を向上

大学受験向け「√Route」にて、解答プロセスの振り返りなど3種類の質問をAIが投げかけ、音声回答を通じて本質理解を深めます。



AIストローク分析による個別指導

市立大学との共同研究により、答案作成途中の「つまずき」や「遅い」を可視化し、一人ひとりの解き方に合わせた指導を実現します。

2026年:大規模リニューアルと視覚的進化



日本初、AIによる「ビジュアル解説」機能

高校講座において、問題に合わせてAIがその場で回轉やグラフを新規生成。既存画像の歩驟ではなく、動的な解説を提供します。

共通テスト得点率



独自AIが共通テスト得点率98.3%を記録

ベネッセの指導ノウハウを学習した独自AIが、共通テスト9教科で満点を達成する極めて高い性能を実証しました(自社調べ)。



社会人向けUdemyへのAIアシスタント実装

講座内容の要約や提議応答に加え、AIを相手にした営業演習などの「AIロールプレイ」機能を日本産講座にも順次拡大します。



赤ペン先生のアバター化とAI最通化

小学講座では、4.2連続の添削データを活用した「赤ペン先生アバター」が登場。居住として365日タイムリーな励ましを行います。

ベネッセが守る「AI活用5つの原則」



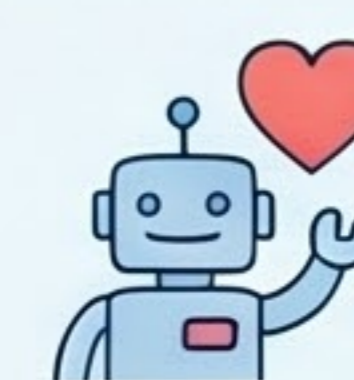
思考を促す設計 (Don't give answers)

AIが直捷の答えを提示せず、ヒントや問いかけを通じて学習者自らが答えに辿り着くプロセスを重視しています。



厳格な安全設計とプライバシー保護

保護者の同意、利用回数制限、入力内容をAIの再学習に利用しない設定など、子ども向けの安全性を最優先しています。



人のぬくもりとテクノロジーの融合

AIによる24時間サポートと、赤ペン先生や教科アドバイザーといった「人」による指導を最適に組み合わせています。